

D-17 生活時刻分析による家庭生活様式の追求
—母親と子供との働きかけ (interaction)
時間—

その3・奈良市勤労者世帯の場合

滋賀県大家政 砂田 孝子
奈良女大家政 北村 君

1. 本研究は家庭管理学・住居学の立場から家庭の各家族構成員の動きを時刻でとらえ、住居内の諸機能を達成するための space と人間関係などを関連させて家庭生活の様式を追求するものである。

2. 家庭生活の中で最も重要視されるべき母親と子供との各生活時刻をとりあげ標準的生活時刻および働きかけ (interaction) 時間の多少と生活形態の如何を検討した。今回は前報にひきつづき第3報として奈良市における調査より勤労者世帯の場合について報告する。

3. 勤労者世帯の母親の起床時刻は平日と休日とでその時刻変動が大きいのが特徴的で、休日の起床時刻は40分平均遅い。平日では起床・就寝共に農業・商業各世帯の中間的時刻となっている。子供の生活時刻の特徴は高校生の就寝が平均午前0時近くになっていることである。働きかけ時間は平日で9時間35分、休日で13時間55

分は、この結果を前報、農業・商業・各世界の値より多し。